

# さざなみ



## 滋賀医科大学附属図書館報

No.42

### 目 次

1998年2月

競争と共生 .....	附属図書館長 前田 敏博.....	2
シリーズ「本との出会い」(7) 日本語の本と私の大学時代 .....	生理学第二講座 助手 丁 維光.....	3
図書館からのお知らせ.....		5
附属図書館利用講習会の報告、予定.....		6
附属図書館の活動.....		7
本学関係者寄贈図書 .....		8

# 競争と共生

附属図書館長 前田敏博

平成9年6月1日付けで図書館長となりました。

前任の挾間先生が副学長に転ぜられましたのでその後任となりました。典型的なコンピューター音痴の私には情報センターたるべき図書館の長は全くの不向きと思ったのですが、何も知らない人が良いとのことで任命されました。

マルチメディアセンター長も兼ねております関係上、情報化時代の図書館の将来、大学の将来を皆様に考えて頂くべく、毎週のように会議をしてもらっています。この頃のコンピューターの変遷の速さを考えると、10年後を予想することは無理であるにせよ、数年先ぐらいの見通しは持って現在の難局を切り抜きたいと思っています。

私がこの大学に正式に任命されたのは1975年でしたから、もう二十年以上が経ち残りは1年余りとなりました。最も若かった私が最年長となってしまいました。人生の3分の1を過ごした最も愛する滋賀医大の将来を考える立場に、私が立たされた事を苦しみながらも喜んでいます。12年前の「しゃくなげ 19号」に書いた文章をみますと、私達の研究室から比良や比叡山を眺めるとありますが、その山々も今は見えません。看護学科の建物ができたからです。世の中は刻々と変わりつつあるのです。今、医者や医科大学は、氷河の時代を迎えようとしていると云われます。『どうせ行政改革もできないことだし、じっとしてれば嵐は過ぎていくさ』と考えている人のなんと多いことでしょう。減少する人口、増加する医療費、打ち続く定員削減等々を考えてみて下さい。そんなに簡単に過ぎて行く嵐ではないのです。大袈裟に云えば大学存亡の危機なのです。

私をイソップの物語の狼少年だと云う人達が多いようですが、そうであっても構いませんから皆さん本気で考えて下さい。

皆さんが学び、研究し、患者さんと接しているこの大学の将来を本気で考えましょう。何度も云うようですが、私は後1年で消えて行きます。しかし滋賀医大は未広がりになって欲しいのです。私達はしゃくなげ会の会員をはじめとする県下の人々とともにこの大学を作ったのです。この大学の将来を考えるのは私達の義務ではないでしょうか。図書館、マルチメディアセンターの将来を考えるにはどうしても大学の将来を考えずにはおれないと思います。百家争鳴こそがのぞまれる姿ではないでしょうか。

私の考えを述べさせて頂くならば題にしました『競争と共生』こそが今後私達がとるべき姿であると思います。競争なき社会は必ず堕落します。しかし競争の結果が喧嘩になっては困るのです。そんな社会も必ず亡びます。

最近『地球共生系』と云う言葉がはやります。例えば私達の祖先は数万年から数十万年にわたって

原人や旧人と同時代に共存していたことが化石証拠から知られています。かつて駆除することだけが最大の目的と云っていた寄生虫でさえ、最近ではその存在の必要性が論ぜられています。地球上の生物は大古の昔から競争と共生をして来たのです。その結果進化したのです。

私達の大学も進化して欲しいのです。

皆様のいろいろなご意見を図書館、マルチメディアセンターは心から待っています。

(まえだ としひろ)

---



---

シリーズ「本との出会い」(7)

## 日本語の本と私の大学時代

生理学第二講座

助手 丁 維 光

---



---

趣味は何かと聞かれたら、読書と答える人が少なくないだろう。私はどうも読書があまり好きではないタイプの間人である。いままで出会った本は、殆ど教科書とそれに関連する参考書のみであった。文学作品・小説等を買求めるために書店に入ることはほとんどなかった。何故読書という趣味を持たないか考えると、私個人の性格によるかもしれないが、青年時代を過ごした環境にもある程度関係があるようだ。私が小学生2年生の頃、中国全土では文化大革命の暴風が吹き始め、社会全体が特別な時代に入ってしまった。いわゆる“古いものを捨て新しい思想を確立しよう”といったスローガンが、すべての職場で声高に叫ばれていた。その頃、労働者は勿論、学校の先生まで政治運動に加わっていたので、私達はやむをえず長期休暇を命じられ家に帰り、大人たちの活発に論争する姿を不思議に思っていたことを今でも覚えている。その時の文芸界は少数の特権階級に牛耳られ、辛い人生や甘い恋愛などを語る本の出版や販売は全面的に禁止され、昔から残されていた古い本も殆ど焼かれてしまった。書店には政治運動に関連する本がずらりと並んでおり、それ以外の本としては、その当時注目を集めていた人物の個人評伝などがたまに売られていた。このような訳で、私や当時の友達には、かつて若者

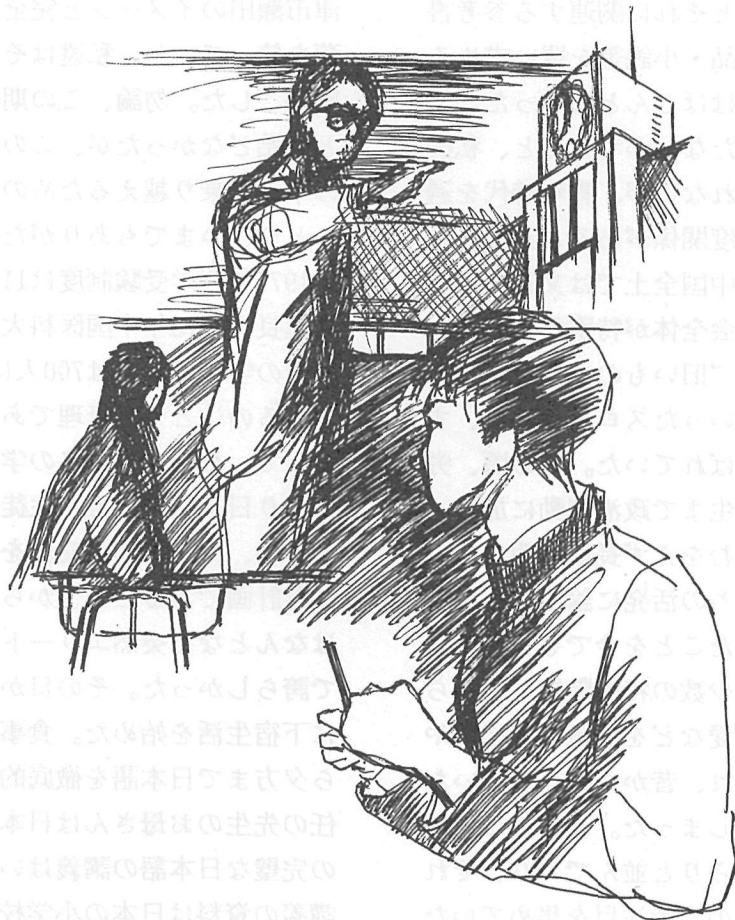
に愛された文学作品や小説などを味わうこともなく、スポーツや麻雀をやったりしながら年月を過ごしていた。長期間にわたった文化大革命はとうとう1976年に終止符を打ち、民衆はようやく夢から眼を覚まし、社会は再び元の軌道に乗り始めた。私は文化大革命終了の直前の1975年に高校を卒業したが、当時大学の受験制度はまだ修復されておらず、唯一の進路は、都市を離れ、農村で組織的な農業体験を受けることであった(この制度は1968年から1977年まで続いた)。当時の中国の田舎では、現在私達がいる大津市瀬田のイメージと完全に異なり、井戸水や薪を使っていた。私達はそのような生活を3年間過ごした。勿論、この期間は本と付き合うことは殆どなかったが、このときの経験が、人生の辛さを乗り越えるための勇気を与えてくれたことを、いまでもありがたいと思っている。

1977年大学受験制度は11年ぶりに再開し、私は運良く1978年中国医科大学に入学した。当時私達の学年の人数は700人にも昇り、互いの顔を覚えるのはとても無理であった。入学後しばらくして、私を含む30名の学生は、何らかの理由により日本語医学班の生徒として選出された。これは、将来の国際交流を図る目的で作られた計画であると先生から説明を受けた。私達はなんとなく突然エリートクラスに入った気分であらうだった。その日から私達30名は、一緒に下宿生活を始めた。食事と一緒にとり、朝から夕方まで日本語を徹底的に叩き込まれた。担任の先生のお母さんは日本人なので、先生からの完璧な日本語の講義はいつも印象的であった。講義の資料は日本の小学校・中学校の国語の教科書から精選された優秀な作品ばかりであった。半年の特訓のお陰で私達は日本語を話せるよう

になり、これらの作品から日本の風習・文化の一端を知ることができた。この特訓の成果が、はたして使い物になるかどうかを検証するために、早速、物理・化学の講義が日本語で始まった。年寄りの先生方は、日本語のテキストを使いながら、昔習った日本語で流暢に講義をしてくれた。驚いたことに、私達は先生方の講義を完全に聞き取り理解することができた。その後卒業するまで、臨床医学も含めたすべての講義を、この様な調子で受けた。日常会話の講義は、その後も週4時間のペースで2年生の終わりまで続いたが、勉強すればするほど日本語の難しさを感じるようになった。動詞の変化は何故こんなに複雑なのか？ 敬語の使い方をどうすればマスターできるのか？ 中国文化の影響を大いに受けたはずなのに、何故こんなに難しい言語に変わったのか？ この様な疑問に刺激され

て、私の日本語に対する好奇心はますます強くなり、これを究明したいという熱意と欲望が私をつき動かした。語彙を増やすために、私ははじめて書店によく出入りするようになった。良い参考書があればすべて買ってきて、できるだけ日本人の文学作品から言葉の多彩な表現を学んでいった。

1987年、大学を卒業してから3年目の時、私は日本国費留学生として選ばれ、学生時代に憧れた日本留学の夢が叶えられた。滋賀医科大学で外科学教室、分子神経生物学センター、生理学教室、さらにデンマークのNovo Nordisk研究所と研究場所を変えながら、多忙な研究生活を送っている。日本に滞在して11年たったが、大学時代に習った日本語は私の人生に大きな勇気と支えを与えてくれた。今でもその時の日本語の本を忘れられない。(ディン ウェイグワン)



# 図書館からのお知らせ

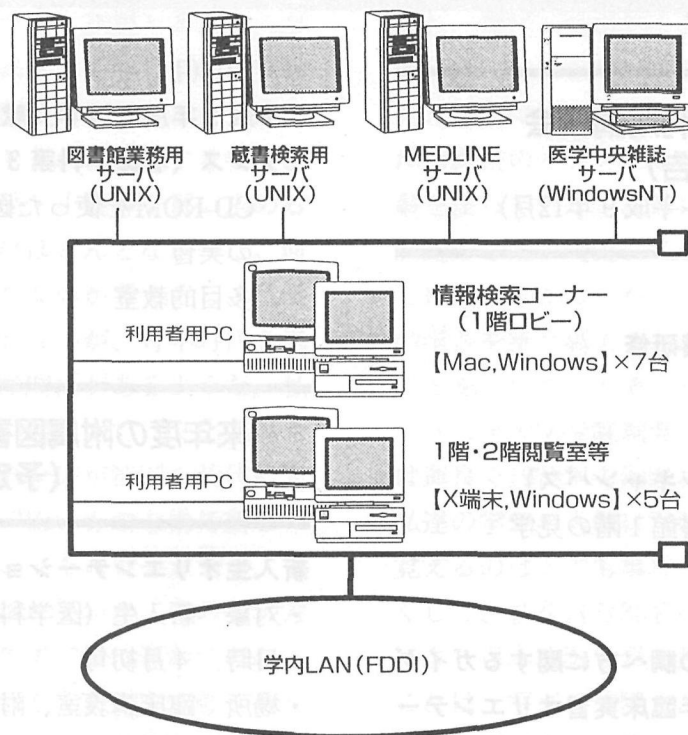
## 図書館システム及びCD-ROMサーバシステムが更新

現在、3月から図書館システム、4月からCD-ROMサーバシステムを稼働させるため、更新作業を行っております。両システム共に学内LANを十分に活用したシステムとなり、ネットワークを介した情報検索の環境も格段に改善されることとなります。また、この機会に従来より懸案としておりました医学中央雑誌のネットワークサービスについても導入を予定しており、講

座等から直接、蔵書検索やMEDLINE・医学中央雑誌の検索が可能となりますので、ますますのご活用をお願いいたします。

更新に伴う作業がありますので、ご迷惑をおかけする場合もあるかもしれませんが、ご協力の程よろしく申し上げます。システムの詳細は次号43号でお伝えする予定です。

附属図書館コンピュータシステム概念図



### 附属図書館コンピュータシステム関連の変遷

- 昭和62 (1987) 年 2月 業務電算化システムの導入 (閲覧・利用者サービス業務、受入・目録業務)
- 63 (1988) 年 4月 館内OPACの開始
- 平成 3 (1991) 年 1月 スタンドアロンによるCD-ROM (MEDLINE等) サービス開始
- 5 (1993) 年 2月 館内LANによるCD-ROM (MEDLINE) のサービスを開始
- 7 (1995) 年 4月 学内LANによるCD-ROM (MEDLINE) のサービスを開始
- 10 (1998) 年 3月 図書館システムの全面更新
- 10 (1998) 年 4月 CD-ROMサーバシステムの全面更新 (MEDLINE・医学中央雑誌)

## ご利用下さい!

ご存じですか?

本学の図書館は専門書ばかりではありません。

岩波新書をはじめ、中公新書、中公PC新書、講談社ブルーバックス、NHKブックスを継続購入しています。その他岩波文庫もおおよそ所蔵しています。

また、それ以外に3年前より、芥川賞や直木賞をはじめとした多くの文学賞受賞作品も逐次購入しております。

これらの新しく買った図書は2階上がってすぐの『新規受入図書』の書架に配架されています。時間に追われる毎日ですが、たまには文芸書など手に取るのもいいものです。

ぜひ、新規受け入れ図書をご利用下さい。

(図書課情報管理係)



### 附属図書館利用講習会 (報告)

(平成9年7月～平成9年12月)

7月15日(火)

滋賀県看護協会の看護研修

8月27日(水)

大学説明会(オープンキャンパス)

施設案内:附属図書館1階の見学

9月10日(水)・17日(水)

平成9年度医学文献の調べ方に関するガイド  
ンス(医学科第5学年臨床実習オリエンテ  
ーション)

CD-ROMを使ったMEDLINE文献検索の  
実習

9月24日(水)

看護部研修

図書館案内と文献検索(CD-ROM)の説  
明(8名:看護部看護研究推進委員)

12月22日(月)

平成9年度看護学文献の調べ方に関するガイ  
ダンス(看護学科第3学年)

CD-ROMを使った医学中央雑誌文献検索  
の実習  
多目的教室

### 来年度の附属図書館利用講習会 (予定)

新入生オリエンテーション(附属図書館案内)

- ・対象 新入生(医学科、看護学科)
- ・日時 4月初旬
- ・場所 臨床講義室、附属図書館など
- ・内容 図書館についての全体説明

医学総合研究特論(大学院特別講義)

文献検索に関するオリエンテーション

- ・対象 大学院医学研究科第1学年
- ・日時 5月中旬
- ・場所 附属図書館など
- ・内容 文献検索から文献入手の概要を説明

新規採用医員(研修医)

文献検索オリエンテーション

- ・対象 新規採用医員（研修医）
- ・日時 6月初旬
- ・場所 附属図書館
- ・内容 文献検索の紹介と実習

#### 医学文献の調べ方に関するガイダンス（臨床実習オリエンテーション）

- ・対象 医学科第5学年
- ・日時 9月
- ・場所 附属図書館
- ・内容 文献検索の実習

#### 看護部研修

- ・対象 看護部看護研究推進委員
- ・日時 9月下旬
- ・場所 附属図書館
- ・内容 館内案内と文献検索の説明

#### 看護学文献の調べ方に関するガイダンス

- ・対象 看護学科第3学年
- ・日時 12月下旬
- ・場所 附属図書館
- ・内容 文献検索の実習

（図書課情報サービス係）

## ◆ 附属図書館の活動 ◆

（平成9年7月～平成9年12月）

### 附属図書館委員会関係

第82回 7月15日

- ・「附属図書館の将来構想に関する報告書」に基づく今後の対応について
- ・平成10年度附属図書館備え付け外国雑誌の見直しについて

第83回 10月9日

- ・学生用図書の選定について
- ・滋賀医科大学雑誌の今後の発刊について

第84回 12月16日

- ・近畿地区医学図書館協会における雑誌分担保存について
- ・平成9年度大学院生用図書の選定方法について

### 日本医学図書館協会関係

近畿地区医学図書館協議会例会

第69回 7月2日（大阪市立大）

第70回 11月28日（神戸大）

第4回医学図書館員基礎研修会実行委員会

7月11日（大阪市）

8月22日（大阪医科大学）

第4回医学図書館員基礎研修会

8月6日～8日（奈良県立医科大学）

日本医学図書館協会企画・調査委員会

第8回 10月31日（京都府立医科大）

第9回 12月19日（関西医科大）

### 研修関係

平成9年度図書館等職員著作権実務講習会

8月26日～29日（広島大）

平成9年度漢籍担当職員講習会

9月29日～10月3日（京都大）

平成9年度監督者（係長級）研修

10月21日～24日（京都大）

近畿地区医学図書館協議会第3回シンポジウム

10月24日（奈良先端大）

学術雑誌総合目録欧文編1998年版全国調査説明会

10月28日（大阪大）

平成9年度学術情報センターシンポジウム

10月30日（東大阪市）

第10回国立大学図書館協議会シンポジウム

11月25日（神戸大）

平成9年度（第9回）職員研修

11月25日～27日（栗太郡）

平成9年度近畿地区国公立大学図書館協議会

講演会

12月15日（京都大）

# 本学関係者寄贈図書

安藤 喬志 (化学教授)

宗宮 創 (化学助手)

これならわかるNMR そのコンセプトと  
使い方  
化学同人 1997

岡田 慶夫 (名誉教授)

胸の科学  
金芳堂 1997

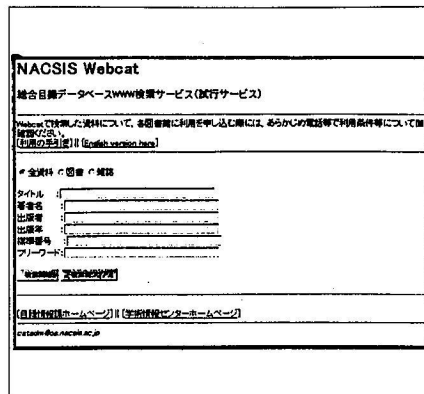
小林 博 (前非常勤講師)

ヨーロッパ都市の近代的変容  
大明堂 1996

ご惠贈ありがとうございます。図書館の蔵書として広く利用に供させていただきます。

## 紹介

「探している雑誌や図書の所在を知りたい。」  
そんな時、便利なホームページです。  
学術情報センターのNacsis-catで作成した総合目録データベースが検索でき、全国たくさんの大学図書館等の所蔵状況がわかります。



URL <http://webcat.nacsis.ac.jp/>  
本館のホームページ (URL <http://www.shiga-med.ac.jp/library/>) からリンクしています。

文部省 学術情報センターは、学術情報の収集、整理及び提供並びに学術情報及び学術情報システムに関する総合的な研究及び開発を行うことを目的とした大学共同利用機関です。

# 附属図書館委員会委員

平成10年2月1日現在

(任 期)

委員長	前田 敏博	教授 (解剖学第一講座)	平成9年6月1日 - 11年3月31日
委員	森田 一平	助教授 (独 語)	9年10月28日 - 11年10月27日
委員	安藤 喬志	教授 (化 学)	8年10月8日 - 10年10月7日
委員	堀池 喜八郎	教授 (生化学第一講座)	9年10月28日 - 11年10月27日
委員	陣内 皓之祐	教授 (生理学第一講座)	8年10月8日 - 10年10月7日
委員	西 克治	教授 (法医学講座)	8年10月8日 - 10年10月7日
委員	吉武 一貞	教授 (歯科口腔外科学講座)	9年10月28日 - 11年10月27日
委員	上原 正巳	教授 (皮膚科学講座)	8年10月8日 - 10年10月7日
委員	山路 昭	教授 (薬 剤 部)	9年10月28日 - 11年10月27日
委員	泊 祐子	助教授 (地域生活看護学講座)	9年10月28日 - 11年10月27日

滋賀医科大学附属図書館報「さざなみ」No.42

1998年2月発行

編集・発行 滋賀医科大学附属図書館 〒520-2192 大津市瀬田月輪町

TEL.077-548-2077 FAX.077-543-9236